

3 になる社会

創刊号

2002

8

敵  
素  
だね!

1

+ 1 が

3

# コラボレーション

協働

..... c o l l a b o r a t i o n .....

## ひょうごボランティアプラザ オープン



ひょうごボランティアプラザ全景  
(交流スペース・図書コーナー)

### ひょうごボランティアプラザ情報紙 「コラボレーション」創刊!

ひょうごボランティアプラザでは、月刊紙「コラボレーション」を創刊しました。ボランティア活動関係団体が必要とする旬の情報を幅広く発信していきたいと思っております。どうぞよろしくおねがいします!

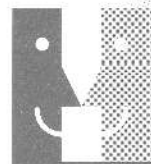
6月1日からオープンした「ひょうごボランティアプラザ」が、神戸クリスタルタワーで開設記念式典を行いました。ひょうごボランティアプラザは、阪神・淡路大震災で大きなうねりとなったボランティア・市民活動を、より大きく確かなものとし、ボランティアセクターを確立することを目指す、ボランティア活動の全体的支援拠点です。

本号では、ひょうごボランティアプラザの開設にあたり、その開設記念式典の様相を、記念講演を中心に紹介するほか、プラザの施設や機能についてご紹介します。

#### Contents

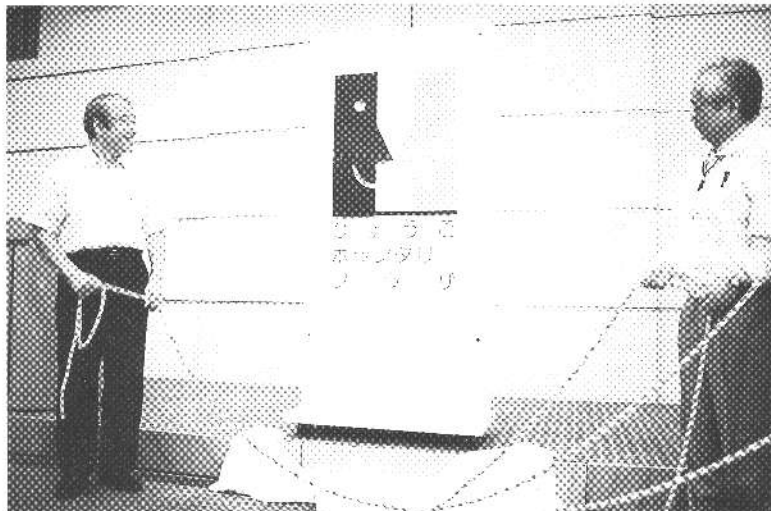
- P.1-2 ひょうごボランティアプラザ オープン 開設記念式典
- P.3-4 開設記念式典記念講演「ボランティアセクターの確立とNPO支援センターの役割」(要旨)  
東京ボランティア・市民活動センター所長 山崎美貴子氏
- P.5 「ボランティアセクターを支える」(連載第1回)東京ボランティア・市民活動センター
- P.6-7 ひょうごボランティアプラザで何ができるの?
- P.8 コラボ広場

# ひょうごボランティアプラザ開設記念式典



ひょうごボランティアプラザのオープンにあたり、6月22日(土)、神戸クリスタルタワーリスタルホールで、「ひょうごボランティアプラザ」開設記念式典が行われました。式典は、小森星児ひょうごボランティアプラザ所長、井戸敏三兵庫県知事、水田宏兵庫県議会議長の挨拶の後、プラザのシンボルマークを模したパネルの除幕式が行われました。このシンボルマークは、「人と人が出会い、ネットワークを広げていく交流の拠点」を象徴するもので、誠実・信頼を表すブルーがプラザを、活動的なイエロ

パネル除幕式の模様



ーがボランティア活動者を表現し、「向者が向かい合い、兵庫の頭文字「H」を形作り、参画と協働の理念をイメージしているものです。

式典の後半には、都道府県域におけるボランティア活動支援の先進組織である東京ボランティア・市民活動センターの山崎美貴子所長による記念講演「ボランティア・セクターの確立とNPO支援センターの役割」が行われました。

式典には、県内外から約2500名が参加し、多くのメッセージが寄せられました。

## 小森星児プラザ所長のメッセージ

「神戸山手大学学長、神戸商科大学名誉教授。専門は都市問題・地域政策」  
構想策定から6年経りましたが、本日、

プラザは県内全域をサービスエリアとするNPO支援拠点として発足しました。震災を契機に高まったボランティア活動の機運を、発展させ、先を走る「民」の活動を、資金・人材・制度などの面から「公」が支える仕組みを整備することがプラザの役割で、関係者の皆さんのお力添えをお願いいたします。

## 井戸敏三兵庫県知事のメッセージ

このプラザを、多くのNPOや地域団体、公共・民間の支援組織の皆様にご利用いただくことにより、今後、ボランティアな活動がますます活発になっていくことを期待しています。そして、これらのセクターがネットワークの輪を広げつつ、「参画と協働」の推進役として、大きく成長されることを願っています。

## 水田宏兵庫県議会議長のメッセージ

すべての県民が健やかで創造的な暮らしをおくることのできる市民社会の実現をめざす中で、県民の皆様とNPOのパートナーシップが何よりも重要な鍵になってくるでしょう。ボランティア先進県兵庫におけるますますのボランティア・精神の燃え上がりをお願いいたします。

## ひょうごボランティアプラザの概要

### ●便利な立地と関係機関との連携

プラザは、JR神戸駅南側の神戸クリスタルタワー10階にあります。このビルには県立神戸生活創造センター、男女共同参画センター、県民ギャラリーをはじめ、さまざまな県民活動サポート拠点が集積しており、プラザの設立により相乗効果をあげることが期待されています。

### ●多彩なサービスを週80時間利用可能

プラザは盆と年末年始を除き年中無休で、週80時間ご利用いただけます。会議スペースや印刷コーナー、パソコン・図書コーナーなどの機能を有しています。施設のご利用は、原則無料です。

### ●ひょうごボランティア基金の創設と助成制度

「ひょうご地域福祉財団」の基金を一本化して総額100億円の「ひょうごボランティア基金」を創設し、「阪神・淡路大震災復興基金ボランティア活動助成」と一体的に運用します。本年度の助成総額は、約4億円を見込んでいます。今後さらに助成制度の枠組みの点検・充実を図ります。

開設記念  
式典  
記念講演

# 「ボランティアセクターの 確立とNPO支援センターの 役割」

東京ボランティア・市民活動センター所長  
山崎 美貴子 氏



山崎 美貴子氏  
(東京ボランティア・市民活動センター所長)

※ 明治学院大学教授。中央社会福祉審議会委員等を歴任する一方、2001年ボランティア国際年推進協議会代表、日本ボランティアコーディネーター協会代表、日本福祉教育・ボランティア学習学会会長の他、兵庫県が平成11年度に実施した震災対策医療総合検証事業の検証委員をつとめる。



## 阪神・淡路大震災を経て

本日の「ひょうごボランティアプラザ」の開設を心からお喜び申し上げます。多くの尊い命を奪ったあの阪神・淡路大震災の後、私は多くのボランティアの仲間と幾度となく被災地を訪れました。そして、被災地で展開されるさまざまなボランティア活動を見て、たとえ主体的な活動であつても、個人や基盤が脆弱な団体の活動では限界があり、ボランティア団体が社会的に認知される必要があることを実感しました。多くの人々のこのような思いが特定非営利活動促進法の制定へと結実したわけですが、この法律には税制の問題など、まだまだ改善すべき点がありますが、ボランティアが社会を構成する重要なセクターとして企業や行政などのセクターと対等なパートナーシップを形成していく方向によりやく今歩み出したと思います。

また、阪神・淡路大震災の中で、多くの人々が

行政や企業セクターだけでは多様できめの細かいニーズには対応できないということを経験したのではないのでしょうか。例えば聴覚障害のある人へのようにして情報を発信するか、てんかんの持病のある人にいかにして薬を届けるか、孤立した車椅子の人をどのようにして救援するかなど、公平・平等という枠に縛られがちな行政では対応できなかった個別的で多様なニーズにボランティア団体はきめ細かく対応しました。

## 広がり始めた ボランティアの担い手

震災を通してボランティア活動の担い手も広がりました。またボランティア活動の担い手が、ある時はサービスの受け手であり、サービスの受け手が別のところではボランティア活動の担い手であるという、双方向の関係性が多く見られました。これは、援助する人と援助される人という、これまでのような固定的な関係ではない、いわば新しい当事者性と言えるのではないのでしょうか。さらに、活動層の範囲も広がりました。確か全国社会福祉協議会による1992年の調査と1999年の調査の比較では、活動者数が1・6倍、つまり約700万人ほどになっていきます。そして、日本赤十字社のさまざまな奉仕活動をしている人々やN

PO法人で活動している人々などを併せると、全国で約1500万人と「言われていますが、その活動層もかつてのように特定の年齢層や、女性に偏つてるといったことがなくなりつつあり、むしろ本日の会場にも10代、50代の男性が多いように、そういう層が増えてきています。各地の市民参加の動向を見ても、多様な担い手、多様な参加の形態が着実に進展してきていると言えます。

## 鮮度のよい情報提供を

さて、このプラザをはじめとしたNPO支援のセンターのあり方、中でも情報提供について、少しお話ししたいと思えます。必要な情報を収集し、必要としているところに流す、これは易しいようで実は非常に難しいことです。そのための工夫が活動の命綱だと思います。本当に必要な情報、価値のある情報というものは、自分の身も危うくなるところまで身を置かないと入手できないと言われています。また、発信の仕方にも工夫が必要です。ホームページを設けていても、リニューアルしていなければ、アクセス件数はすぐに落ちてきます。情報というものは非常にタイムリーで、その時、役に立たなければ全く意味がなくなってしまうので、旬の情報、鮮度のよい情報をどのようにして収集し、発信するかという工夫が重要です。

## NPOが望む支援とは

NPOなどが支援拠点に望む機能について、東京都内のいくつかのボランティアセンターを対象に調査した結果がこの間、地域福祉学会で報告されました。それによると、以前は活動したい人と活動を受けたい人とのマッチング、つまりボランティアの需給調整に対するニーズが高かったんですが、今では、それはずっと下位に落ち、鮮度のよい情報の入手に対するニーズが高くなっているとのこと。もう一つは、活動の企画に対する相談です。特に企画に対する相談に十分応えられるようにしないとNPOに対する応援にはなりにくくなってきていると思います。そのほか、拠点としての利用のしやすさという意味で、開館時間なども重要です。さらに、NPOから見ると、支援拠点到本当に頼りになるスタッフがいます。



かどうかも大きな要素と、言えます。その意味で、ファカルティ・ディベロプメント（職員の資質向上）やインターンシップ（実習・研修的な就業体験をする制度）などを通して支援拠点職員の能力開発が非常に重要になってきます。また、ボランティア活動をしているグループは、どうしても独りよがりになりがちなところがあります。ですから、こうした個々のグループをどのようにして連携・協働できるようにするか、そのシステムをつくり、このプラザが黒子になって応援していくことが大切です。

## 行政との新しい関係の構築に向けて

もう一つ非常に重要なことは、私たちは行政との長期的な関係、社会的なネットワークを形成しているのだということです。いろいろな自治体で、低コストだからということ、NPOなどに委託をしたり、行政の下請的なことをしている例が少なからず見受けられますが、市民セクターとして対等なパートナーシップをつくっていく必要の長い努力を必要とします。時には行政と

の人材交流やインターンシップなどを行いながら、行政セクターとボランティアセクターの文化、システムの交流を図っていくことが大切だと思います。それで、私は「コンバクト」（協約）ということを提案しているのですが、これは協働のための契約とまではいなくても、協約ができればということ。イギリスでは、各自自治体単位でボランティアセクターと行政セクターが協約を結び、これはボランティアセクターが行う、ここは行政セクターが行う、というように取り決めをしています。サッチャー政権のときは、ボランティアは安上がりで行政の下請的な位置づけがありました。最近では対等なパートナーというふうに変わってきたとのこと。これも一つの方向だと思えます。市民のかけがえない命を行政だけに全部お任せするのはなく、行政と市民が一緒になって生きやすい社会をつくっていく、その役割分担をきちっとつくっていけば、明日の日本にも希望が持てるのではないのでしょうか。

ここ兵庫では、尊いたくさんの犠牲を払った上で、多くの学びのストックを蓄えています。これからも私は、兵庫を訪れて多くのことを学ばせていただきたいと思えます。本日は、この貴重なすばらしい機会にお招きいただき、心から感謝申し上げます。

# ボランティアセクターを支える

## 「東京ボランティア・市民活動センター」

(TVAC)

### ～協働とネットワークを活かした運営が 先駆的な事業展開を可能に～

このコーナーでは、ボランティアセクターの確立に向けて活動を展開中の県内・県外の中間支援組織・地域活動支援拠点の取り組みをご紹介します。今回は、社協運営型で総合的なボランティア活動支援組織として先進的な活動を行っている「東京ボランティア・市民活動センター」をクローズアップします。

阪神・淡路大震災以降、全国的に広まったボランティア・市民活動の波を受けて、総合的なNPO・市民活動の支援組織の設立が各地で相次いでいる。現在では100以上のNPO・ボランティア・市民活動支援センターが設置され、それらの運営形態も、公設公営から民間が主体となって進めているものなど、多様である。

東京ボランティア・市民活動センターは、1998年に前身の東京ボランティアセンターの改組により設立された、いわば「総合的なボランティアセンター」の先駆者であり、東京都社会福祉協議会が運営を行っている。ミッションに「市民の市民活動への参画と、市民活動団体の発展を支援することにより、市民セクター全体を強化しながら、市民自らの手によって社会的な課題の解決を図り、市民一人ひとりの自己実



センターはJR飯田橋駅前ビル10階にあり、年間利用者は、14万人におよぶ。

現が達成されることによって生活の質（QOL）が高められていくような「市民社会」を実現していくこと」を掲げ、市民参画による市民主体の社会形成をめざしている。常勤・非常勤あわせて18名のスタッフを擁し、幅広い事業を展開。センターは、印刷機や資料コーナー、情報ボックス、会議室等活動者が利用できる設備があり、センターの出出版物や記念グッズも販売している。

東京ボランティア・市民活動センターは、海外の団体と連携した国際的研究や多様な媒体を駆使したきめ細やかな情報発信、また区市町村のボランティアセンターや広域のボランティア・市民活動推進団体、行政、企業・労組、教育機関、専門家などとのコラボレーションプロジェクトなど、多彩な分野において連携しつつ、先進的な事業展開を行っている。このような先駆的な活動を可能にする鍵は、センターを支えている「運営委員」と「スタッフ」の層の厚さと行き届いた連携体制にある。「運営委員」は、

役職ではなく「ぜひこの人に」という人材ベースで選ばれ、運営委員会での決定がセンターの方針として最も大切にされている。さらに運営委員は、常勤・非常勤職員とチームを組み、実際の事業の組み立て・実施にも関わっていく。市民活動をはじめいろいろな分野の最前線で活動する運営委員の考え方や知識、ネットワークが、職員と組むプロジェクトチームを通じて、ダイレク



「東京ボランティア・市民活動センター情報紙ネットワーク」。本紙の間に講座やイベント情報満載の「Information」が折りこまれている。

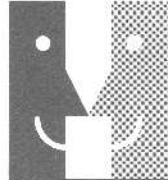
ホームページ  
URL: <http://www.tvac.or.jp/>

トに事業に生かせる仕組みとなっている。また、東京ボランティア・市民活動センターのスタッフは、主に常勤の社協職員と大学院卒レベルの非常勤職員で構成されており、各々の持つ能力を活かした配置となっている。副所長の安藤雄太氏は「市民活動団体・NPOとの協働においては、人と人との関係をいかにつくるかが重要。最大の武器は「情報とネットワーク」。どれだけ情報をつかみ、ネットワークをつくれるかが勝負」と、市民活動支援を担う人材の重要性和、地域やNPOに向向いていき、入り込み、協働するワーキングスタイルの大切さを語る。

特定テーマについてNPO・市民活動団体とネットワークを組み、協働を続ける中から、更なる取り組み課題が見え、再び新たな枠組みで協働が生まれ、広がっていく。創発的な事業展開のスタイルが東京ボランティア・市民活動センターの「先駆性」に通じている。

(荒木)

# ラザで何ができるの？



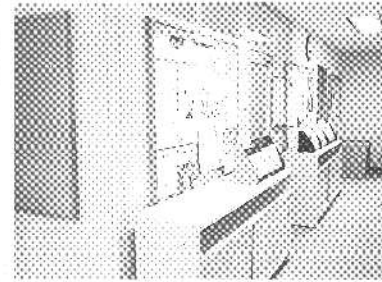
を一層ひろげられたら.....、と願っています。

プラザの利用についての受付及びボランティア活動についての相談窓口です。また、NPO法人の設立や運営に関する法律、会計・財務の専門相談の受付も行っています。ボランティア活動に関する様々な相談に対して、情報源や最適な相談機関を紹介するなど、ワンストップサービスをめざしています。また、生活復興のためのNPO相談も受け付けています。



## 受付コーナー

プラザ内の壁面は、できる限り掲示板、パンフレットラックを設置しています。「こんなイベントやります」「こんな活動をやっているグループですが、参加しませんか」など、グループで作成したチラシ、ポスター、パンフレットを掲示することができます。掲示を希望されるグループは受付までご持参ください。なお、期限の過ぎたチラシなどは、各グループで取り除くようにお願いします。



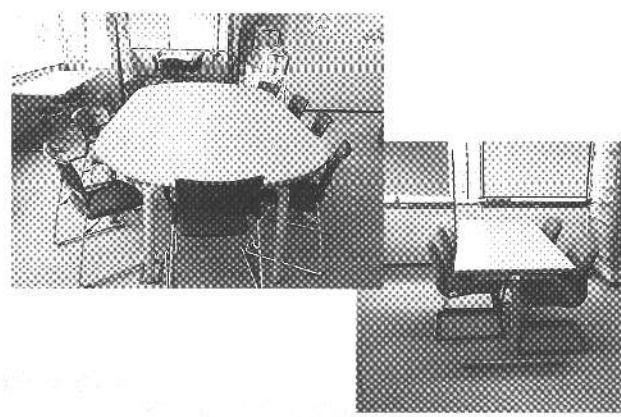
## 展示スペース

NPOやボランティアに関する図書、行政機関や研究機関などが発行する報告書、調査資料などを自由に閲覧できます。また、情報ボックスコーナーを設けて、NPOやボランティア団体などが作成した会報なども閲覧できますので、各団体で作成された会報などがありましたら、1部プラザまで送付ください。そのほか、兵庫県が認証したNPO法人に関する資料についても閲覧できるようになっています。なお、図書等については、現在貸し出しは行っておりませんが、必要な箇所は有料でコピーできるようになっています。



## 図書コーナー

打ち合わせやミーティングに利用できるオープンスペースです。ミーティングテーブルは席が空いていれば誰でも予約なしにご利用いただけます。6人掛けテーブルが2個、10人掛けテーブルが1個ありますが、ミーティングの人数によって、自由にばらしたり、ひっつけたりしながら盛り合ってください。



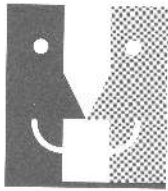
## 交流サロン ミーティングテーブル

ひょうろボランティアグループプラザでは  
こんなことが出来ます。



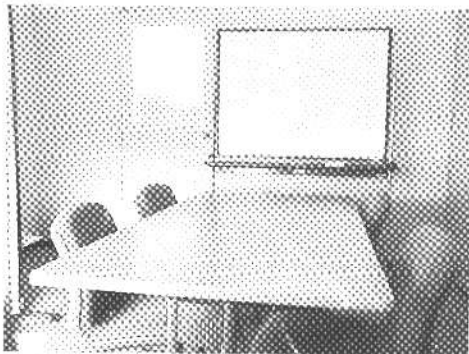
こんなことができたらいいな...の  
声もお聞かせください。





# ひょうごボランティアープ

プラザでできることが、みなさんの活動の幅

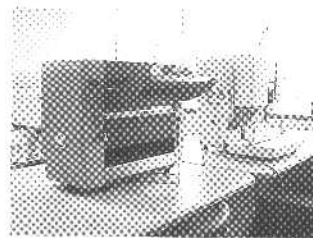
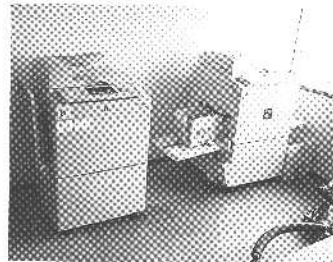


6人から8人程度のミーティングに適した会議室です。2時間までの利用が可能で、あらかじめ、会議スペースを確保したい場合などは、2ヶ月前から予約することができます。

## ミーティングコーナー

印刷機2台、裁断機、紙折機、製本機がありますので、チラシやミニコミ誌等の作成にご利用いただけます。印刷用紙はご持参ください。印刷に要する時間は、A4両面1000枚あたり約30分で、B5判からA3判まで印刷できます。裁断機は、1回最大1.5cmまで裁断できます。紙折機は、2・3・4つ折り、片袖折りなどが可能です。なお、印刷コーナーを30分以上利用される場合は、事前にご予約ください。

## 印刷コーナー



Hyogoしごと情報ひろば

## ひょうごボランティアープラザ

- 生活復興県民ネット
- 神戸人材銀行
- 神戸高齢期雇用就業支援センター
- 兵庫県立男女共同参画センター
- 兵庫県立神戸生活創造センター(事務室)
- (財)兵庫県青少年本部
- (財)野外活動協会
- 震災復興総合相談センター
- ひょうご住まいサポートセンター
- 外国人県民相談コーナー
- 高齢者総合相談
- 兵庫県神戸生活創造センター(情報提供・活動)
- 青少年交流プラザ
- ひょうごエコプラザ
- 兵庫県神戸生活創造センター(活動・交流促進)
- クリスタルホール
- 県民ギャラリー
- 受付・エントランス

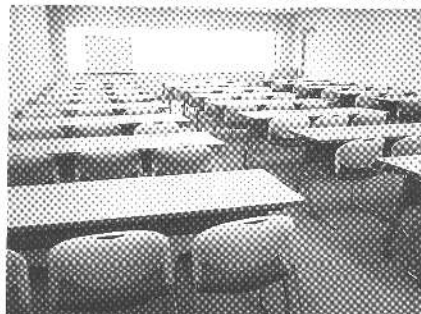
パソコンを3台設置していますので、インターネットを利用して、自由にボランティア活動に関する情報や助成金情報などを収集することができます。また、うち2台のパソコンについては、文書作成、表計算、画像処理、プレゼンテーション資料作成などのソフトを備えており、



資料、チラシなどを作成することができます。利用にあたっては、パソコン技術に精通したスタッフがいますので、気軽にご相談ください。なお、インターネットは30分まで利用できます。資料作成のための利用は、事前にご予約ください。

## パソコンコーナー

NPO大学などプラザが主催・後援するイベントのためのスペースですが、NPOやボランティア団体もセミナーや研修会、設立総会などに利用できます。3人掛けのテーブルが24個(合計72席)あり、液晶プロジェクター(書画カメラ付)、OHP、スライド映写機、ホワイトボード、



マイクなどの付帯設備を利用いただけます。3時間までの利用が可能ですので、事前にご予約ください。なお、セミナー室を使用されるイベント等で、プラザの後援を希望される団体はご連絡ください。

## セミナー室

多交遊館から地下通路を歩いて

- JR神戸駅・地下鉄海岸線ハーランド駅より徒歩3分
- 神戸高速鉄道高速神戸駅より徒歩7分
- 地下駐車場

